

県内上場企業の2026年3月期決算と2027年3月期予想

【注】連結ベース、※は非連結。単位は百万円、%。かっこ内は前期比増減率、▲はマイナス。■は損失。－は未定。
信和は国際会計基準（I F R S）のため、経常損益は税引前損益。銀行は除く。

	2026年3月期			2027年3月期予想		
	売上高	経常損益	純損益	売上高	経常損益	純損益
【電気機器・化学】						
イビデン	416,201（12.7）	60,822（27.0）	63,713（89.0）	500,000（20.1）	90,000（48.0）	58,000（▲9.0）
未来工業	45,673（1.2）	6,899（▲2.4）	4,696（▲2.8）	－（－）	－（－）	－（－）
ムトー精工	29,688（7.7）	2,768（7.3）	1,990（31.8）	31,000（4.4）	3,100（12.0）	2,000（0.5）
【輸送用機器】						
J－M A X	51,919（10.2）	1,140（黒字化）	891（黒字化）	50,000（▲3.7）	1,600（40.2）	1,000（12.2）
レシップHD	23,898（▲7.8）	1,508（▲56.7）	1,177（▲47.8）	26,500（10.9）	1,900（25.9）	1,300（10.4）
【繊維・紙・木製品】						
※セブン工業	15,589（1.1）	■60（赤字化）	■127（赤字化）	16,765（7.5）	110（黒字化）	45（黒字化）
※ハビックス	12,110（▲9.0）	474（▲41.3）	547（▲16.2）	－（－）	－（－）	－（－）
【金属・機械】						
K V K	30,899（4.2）	3,074（0.1）	2,189（3.7）	31,500（1.9）	3,200（4.1）	2,200（0.5）
信和	20,138（15.1）	2,313（54.4）	1,718（76.2）	22,000（9.2）	2,360（2.0）	1,600（▲6.9）
和井田製作所	6,659（▲11.8）	355（▲51.6）	275（▲36.6）	7,524（13.0）	501（40.9）	351（27.2）
【土石製品】						
T Y K	31,484（▲1.4）	4,268（▲15.2）	3,740（19.5）	31,770（0.9）	4,170（▲2.4）	4,530（21.2）
美濃窯業	16,154（7.3）	1,689（0.5）	1,250（2.7）	16,500（2.1）	2,000（18.4）	1,400（11.9）
【小売り・卸売り】						
バローHD	924,114（8.2）	30,019（14.7）	16,476（20.7）	1,000,000（8.2）	30,500（1.6）	16,500（0.1）
※セリア	255,695（8.2）	21,287（25.3）	14,696（31.0）	273,600（7.0）	21,400（0.5）	14,800（0.7）
【運輸】						
セイノーHD	812,965（10.3）	37,264（32.5）	23,638（22.8）	825,500（1.5）	41,800（12.2）	27,500（16.3）
【サービス・情報・通信】						
トーカイ	159,664（6.8）	10,098（14.4）	6,069（28.3）	165,400（3.6）	9,437（▲6.5）	6,117（0.8）
サンメッセ	17,130（4.2）	543（55.1）	460（38.7）	17,236（0.6）	378（▲30.3）	241（▲47.5）
文溪堂	12,139（▲2.6）	853（▲8.6）	552（▲8.2）	12,187（0.3）	959（12.3）	625（13.1）
中広	12,153（7.2）	401（24.4）	188（15.0）	13,000（7.0）	500（24.6）	300（59.3）
日本ソフトウェア	3,606（▲31.9）	■55（縮小）	■255（拡大）	4,784（32.6）	449（黒字化）	331（黒字化）

3月期決算

上場20社まとめ 10社は過去最高

県内14社が増収

県内上場企業20社（3月期決算、銀行を除く）の2026年3月期決算が19日、出そろった。全20社のうち、全体の70・0％に当たる14社が増収、うち10社が過去最高だった。65・0％の13社が純損益で増益（黒字化含む）だった。当初はトランプ米政権の関税政策への警戒感があったものの、企業の合併・買収（M&A）や円安による収益押し上げ効果が業績に寄与した。

（松浦健司）

売上高が過去最高だったのはバローホールディングス（HD）、セイノーHD、セリア、トーカイ、未来工業、信和、美濃窯業、中広。バローHDとセリアは既存店の売り上げが堅調に推

業、K V K、ムトー精工、移したことに加え、新規出店も増えた。セイノーHDとトーカイ、信和、中広は主力事業に加えてM&Aに

よる子会社化が寄与した。未来工業は製品を値上げし、K V Kは水栓の高付加価値商品の受注が増えた。ムトー精工は主力のプラスチック事業でのセラミックス分野の新規開拓が進んだ。増収率は、信和が15・1％増と最も大きく、次いでイビデンの12・7％だった。イビデンは主力の電子事業で生成人工知能（AI）用サーバー向けのI Cパッケージ基板の受注が好調だった。

純損益の増益（黒字化含む）は13社（65・0％）、

減益は5社（25・0％）、赤字は2社（10・0％）だった。増収率のトップはイビデンの89・0％で、政策保有株式の売却益などが押し上げた。次いで信和の76・2％で、M&Aに伴う負のれん発生益が寄与した。

自動車部品では、J－M A Xが中国・福建の新工場で車載電池メーカー向け電動化部品の大幅な増産で増収。純損益も黒字化した。トランプ関税の影響を受けたのは和井田製作所やT Y Kなど。和井田製作所は、企業の設備投資意欲が低調で、中東情勢悪化の影響なども相まって2期ぶりの減収。営業、経常、純利益はいずれも減益となった。